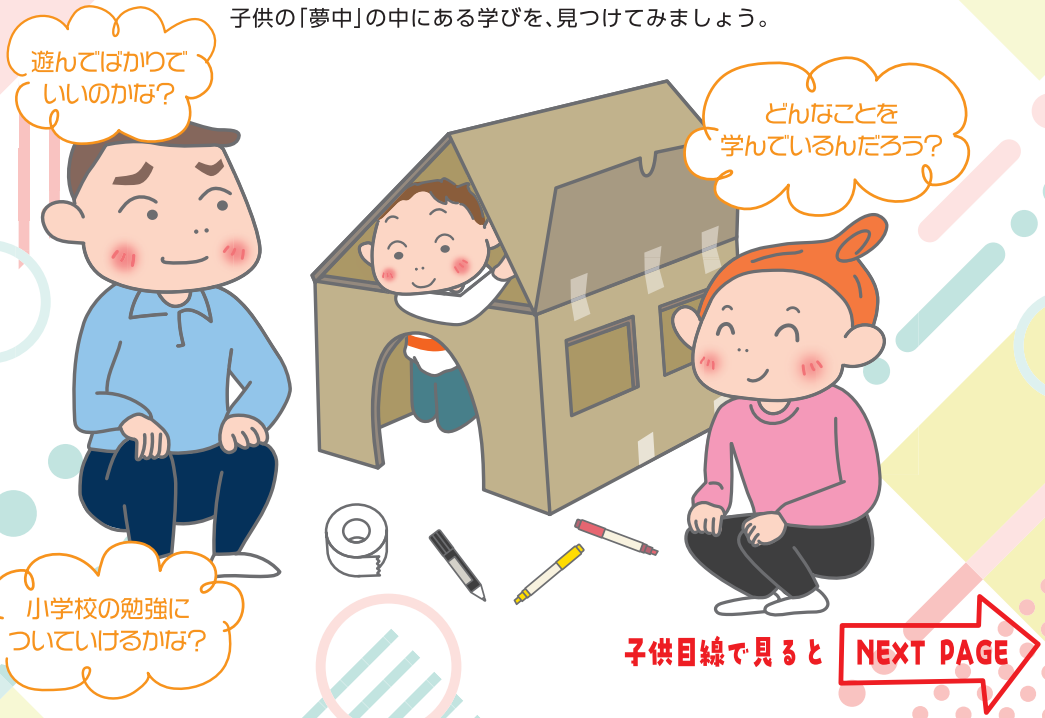
子供にとって遊びや日々の生活の全てが学びです！

「遊び」は「学び」

遊びが育む力編　幼児（3〜5歳）シリーズ⑱

遊んでばかりで大丈夫？
そんな心配、ありませんか

遊びに夢中になっている子供を見て、「これでいいのかな」と思うこともありますよね。
でも、子供にとって遊びは、自分で感じ、考え、試してみる学びの時間。
子供の「夢中」の中にある学びを、見つけてみましょう。



子供目線で見ると　NEXT PAGE

遊び 学び 育つひろしまっ子！
広島県教育委員会乳幼児教育支援センター

「遊び」は「学び」
バックナンバーはこちら ▶

教えて！じゅんこ先生!!

探究のスイッチ！「知る喜び」の根っこを育てて



なかがわ じゅんこ
中川 順子 先生
広島大学附属幼稚園
（東広島園舎）　主幹教諭

専門分野は幼児教育学、保育実践など／保育園、認定こども園を経て現職

子供が栗を「いっぱい！」と抱えたり自分の敷いたレジャーシートに座って「僕の方が大きいかも」と比べたりする姿には、これからを生き抜く学びの基盤が詰まっています。五感で世界を感じ取る姿に大人が「本当だ、いっぱいだね！」「どっちが広いかな？」と丸ごと共感すると、子供は「いくつあるんだろう？」「どうやって比べたら正確かな？」と「知りたい！確かめたい！」という探究のスイッチが入ります。小学校以降の学習で大切なのは、この「自ら問いを持つ力」です。「読める・書ける」といった目に見えるスキルの前に、「知る喜び」の根っこを育てることが大切です。



先輩パパ・ママからのアドバイス



ちょっと大変だけど「なんで？」に付き合ってます

「なんで月はついてくるの？」「なんで虫は飛べるの？」と、「なんで？」ばかり。忙しいと「あとでね」と言ってしまうことも。できるだけ一緒に考えたり、調べたりすると、新しい「なんで？」が次々と出てきて大変なこともありますが、子供の興味が広がっていくのが面白いです。大人も知らないことが多いので、私も勉強になります。（40代・Uさん）

外で遊ぶといろんな経験ができます

外遊びが大好きで、虫を見つけたり、走り回ったり。家ではできない経験がたくさんあるんだなと感じます。体をいっぱい動かして遊ぶので、少しずつ体力もついてきたように思います。（20代・Fさん）

「できない！」と言われても少し待ってみる

「できない！」と言われると、つい手伝いたくなります。でも、少し待ってみると、自分でやり直したり、「こうしてみよう」と考えたりすることも。最近は、まず見守るようにしています。（30代・Tさん）

一緒に料理すると食べることにも興味が

野菜を洗ったり、料理を手伝ってもらったりしています。「これ何？」「どうやってできるの？」と、食材に興味を持つことが増えました。小学校にあがって給食が食べられないこともあるので、家でもできるだけいろいろな食べ物に親しめるようにと思っています。（30代・Hさん）

「遊び」は「学び」をもっと知りたい

家庭で「ちょっとやってみよう」と思える役立つ情報を発信中

親子コミひろしまネット

親子コミひろしま

https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/oyakokomi/

家庭でできる遊びを知りたい

「ホットライン教育ひろしま」では楽しい遊びを紹介中

ホットライン教育ひろしま

親子で遊ぼう　広島

https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/oyakokomi/oyakoasobi.html

広島県教育委員会乳幼児教育支援センター　〒730-8514 広島県広島市中区基町9-42　TEL.082-513-5013

夢中になって遊ぶ中に学びがいっぱい

まずは、いつもの遊びを
ちょっと見てみませんか

「やってみたい！」ことを試す姿、夢中になって繰り返し挑戦する姿、うまくいかず考えて工夫してみる姿、
友達と思いを伝え合いながら一緒に遊ぶ姿。いつもの遊びを、少し立ち止まって見てみると、子供の学びが見えてきます。



遊びの中で育った力は、これからの学びや生活、
そして人生の土台になっていきます。

3歳ごろ



じつはこんな学びが

「楽しい！おもしろい！」が学びの始まり

虫や草花など身近なものに興味を持ち、見たり、触ったり、動かしたりしながら、自分なりに確かめることを楽しんでいます。「面白い」「不思議」「もっと知りたい」という気持ちが、学びのきっかけになります。

感じる・気付く力　考える力　人とかかわる力

こんなとき、どう関わる？

「何を見つけたの？」と一緒に楽しむ

子供の発見や気付きを「何かな?」「どうしてかな?」と一緒に楽しみましょう。子供が自分で見たり、触ったり、試したりする姿をそばで見守ってみましょう。

4歳ごろ



じつはこんな学びが

「もっとこうしたい！」が考える力になる

「もっとこうしたい!」という思いから、自分で考えて試すことが増えていきます。例えば、積み木を高く積むにはどうしたら良いか、遊び方を工夫したり、方法を変えたりする中で、試行錯誤を経験します。

感じる・気付く力　うごく力　考える力　人とかかわる力

こんなとき、どう関わる？

子供の工夫を言葉にする

「ここを工夫したんだね!よく考えたね」と、まずは子供の行為を言葉にしてあげることが大切です。そして「次はこうしたい!」「もっとこうしよう!」につながるよう、見守ったり言葉をかけたりすることで、遊びが広がっていきます。

5歳ごろ



じつはこんな学びが

「一緒に」が人とかかわるきっかけに

自分だけでなく、友達や大人とアイデアを出し合いながら、一緒に遊びをつくっていきます。「こういうのはどうかな?」「やってみよう!」と話し合って実践したり、うまくいかないときに一緒に試行錯誤したりする経験が、将来いろいろな人とかかわって協働する力につながります。

感じる・気付く力　うごく力　考える力　やりぬく力　人とかかわる力

こんなとき、どう関わる？

子供のアイデアに共感する

子供のアイデアに対して、「こういうところがステキだね」と具体的に伝えてみましょう。子供はもっと得意になって「こうやって作るんだよ!」と夢中で説明したり、「今度はこうしてみようかな」と遊びをどんどん広げていったりするようになります。

今、夢中になっていることを大切に

子供の「やってみたい!」という心の声に共感し、温かく見守りながら、必要な環境や素材を届けることで、主体的な学びは豊かに広がります。「遊んでいるだけ」に見える時間は、世界を夢中で広げている時間。その中で育った力は、小学校以降の学びや生活に生きてきます。



一つ選んで

全部やらなくても大丈夫！

今日、やってみよう！

- ☑「どうして？」に共感したり、考えたりする
  「なんでだろうね?」と子供の疑問を一緒に楽しみましょう。
- ☑「どうしたい？」と聞いてみる
  大人が決める前に子供の考えを聞いてみましょう。
- ☑「もう1回」を見守ってみる
  何度も試す姿を「もっとやってみたいんだね」と見てみましょう。
- ☑子供の「やってみた！」を見つけてみる
  子供が試行錯誤しながら工夫してみたことを「諦めずに頑張ったんだね」と肯定的に認めて伝えましょう。

子供の発達は個人差が大きく、環境によって異なります。子供の個性や発達のペースを大切にして、温かく見守っていきましょう。